



実践団体情報 (1 団体あたり 1 回だけ記入する内容です)

必要に応じてセル(表の枠)の高さを調整していただいて構いません

記入日	西暦 2022 年 1 月 21 日 (2021 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	名古屋市立工芸高等学校都市システム科／工芸防災チーム
代表者名	亀田 好洋
プラン全体のタイトル 内容を端的に示し、中身を見たくなるタイトルをつけてください。計画時のタイトルと同じである必要はありません	防災について考え、行動できる人の輪づくり ～住民の、住民による、住民のための防災訓練～の支援
電話番号	052-931-7541
メールアドレス	toshisys.kogei-th@nagoya-c.ed.jp
実践団体の説明 団体の来歴や特徴などを書いてください	本校都市システム科は、前身の土木科が 1943 年に創設され、1989 年の学科改編を経て、今年で創設 79 年を迎える伝統のある土木系学科です。「しなやかに伸びゆくまちづくり」を支えるために、柔軟な発想と様々な視点からまちづくりについて日々研究しています。
所属メンバー 団体のメンバーについてお名前やご所属、役割などを差し支えない範囲で書いてください	都市システム科 亀田 好洋 インテリア科 伊東 匠 都市システム科生徒 岩切颯汰・渡邊湧翔・渡邊大翔・ 佐藤真央・高林翔大・松田光生ほか
活動地域 〇〇地方・〇〇校区など活動地域の範囲に合わせて記載してください。活動範囲が小さい場合には都道府県名など場所が特定できる情報を入れてください	愛知県内名古屋市を中心とした尾張地区
活動開始時期・結成時期	都市システム科防災担当 平成 30 年結成・活動開始 工芸防災チーム 平成 25 年結成・活動開始
過去の活動履歴・受賞歴 これまで行ってきた活動や受賞歴(チャレンジプラン以外も含む)をご記入ください	工芸防災チームとして、防災教育チャレンジプラン特別賞の受賞経験有。

プラン全体の概要	新型コロナウイルス感染症の拡大により、社会のあり方が大きく変革してきました。防災も例外ではなく、このチャレンジプランの活動もリアルからオンラインへという流れに順応してきています。 そのような中で、これまで以上に小規模(学校・地域・行政)な単位での防災教育や、防災活動の実施も余儀なくされており、私たち工芸高校では、過去 2 年間の取り組みを有効に活用し、知的財産の「パッケージ化」に取り組みました。 また、デルタ株収束期に行われたリアルイベントでは、成果物を持ち込み、普及活動にも取り組みました。
----------	---



プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	メンバー募集	—	—
5月	年間計画		
6月	イベント参加登録（随時） 各活動の調整など	擬似体験装置再設計	蓄光ブロックの改良
7月		改良型枠によるブロック製作	擬似体験装置の改良
8月		小学生の誘導ブロック製作体験 HUG 体験（工芸版）	完成形ブロックの校内敷設
9月		イベント参加準備 FMB 検討 工業教育への原稿準備	
10月		イベント参加準備 開設ツールの確認 工業教育の原稿校正	SDGs AICHI EXPO 出展 中間発表会
11月		イベント参加準備 防災公園の設計	NCU SDGs シンポジウム参加 「工業教育（11月号）」への掲載
12月		ベッドの作製	建設技術フェア in 中部出展 全国中学生・高校生防災会議参加
1月		最終報告書作成	
2月	次年度活動準備	最終発表準備	最終発表会参加
3月	区役所との調整	イベント実施準備	

プラン全体の反省点・課題・感想	・令和3年7月から8月にかけて「防災の日」に合わせたイベントを小学校で実施できないかを打診したが、デルタ株の急速拡大により実施できず、パッケージの実用化に至らなかったのは残念であったと思います。 ・一方で、デルタ株の収束期に行われた、リアル・オンライン開催のイベントでは多くの方に関心を頂くことができ、次年度以降に共同活動のご依頼を2件頂くことができた。
今後の活動予定	・外部機関（1企業1機関）と防災に関する連携活動を実施する予定です。 ・プッシュ型の活動として、本校の校内におけるブロック設置を住民の方と一緒に進めるように区役所との協働開催を目指す。 ・FMBの完成にむけて、「食べる・寝る・排泄する」の3観点を満足できるように、継続的な活動を実施する。